

2024年aaca新春の集い

総務委員会

開催日:2024年2月20日

場所:田町センタービルピアタ3階(東京・港区)

2月20日、2月にしてはビックリするほど暖かで、夕方でもコートなしで出歩けるそんなうらかな日に「aaca新春の集い」が開催されました。

aacaでは毎年2回、会員交流会を開催しています。開催は2月の「新春の集い」と8月の「夏季交流会」。前期、後期の各期間に入会された新入会員と既存会員が顔を合わせ、おしゃべりして互いが打ち解けた関係を構築することを目的としています。お酒やソフトドリンク、軽いおつまみを用意し、立食形式で和気あいあいと語らう場です。

今回ご参加いただいた新入会員は、個人会員の津下庄一さん、音瀬陽子さん、法人会員の株式会社東京ブリック社代表取締役小野達大さん、リョービ

株式会社首都圏グループリーダー遠藤隆宏さんの4名でした。

定刻の18時、東條隆郎会長の挨拶で幕を開けました。会長からはaacaの沿革や理念、活動の歴史、aacaが目指すこれからの活動などが語られました。続いて、新入会員それぞれに自己紹介をしていただいた後、音瀬さんからご自身の活動について10分ほどのプレゼンテーションを行っていただきました。そして森暢郎副会長の乾杯の挨拶で歓談が始まりました。歓談の中ほどにはaaca各委員会の委員長や担当者より委員会活動を紹介しました。

会場には法人会員として入会した2社の製品サンプルやカタログなどの展示コーナーが設けられ、製品の特長の説

明を受ける人などで賑わっていました。

楽しい時間はあっという間で、宴たけなわの19時30分、岩井光男副会長の中締めで新春の集いはお開きとなりました。57名の参加者は、ほろ酔いの楽しい気分のまま二次会を求めて夜の街に散っていきました。



第11回aacaサロン 素材を活かす技法—日本文化の粋

会員増強委員会

日本画家と聞いて皆さんは誰を思い浮かべるでしょうか。巨匠 横山大観か風景画の東山魁夷か美人画の伊藤深水か。「日本画」とは明治以降、西洋から伝えられた油彩画と区別するためにつくられた言葉だそうです。

今回サロンにお招きした大沢拓也さんは漆芸と日本画技法をクロストークさせる日本画家です。人々の心に溶け込んでいる心象風景を浮かび上がらせ、見るものに幻影を見るような心地よい錯覚を抱かせます。素材や技術への関心が著しく高く、会場では素材サンプルや試作品を用いて制作手順や技法を分かりやすく説明していただきました。

繊細で気が遠くなるような工程と幻想的な作風の仕掛けには皆さん興味津々で、活発な意見交換がされました。

もう一人のゲストは壁材メーカー フッコーの杉山成明社長です。富士川清流、着物の染物屋が原点で、染色業から引き継がれる色の表現が、建物にまとう壁材にも生き続けています。

壁装の変遷や左官材料の色・質感・塗り味など、サンプルや左官道具を用いて丁寧に説明していただきました。

新しい近代工芸を探索する大沢さんと、建築工業とARTとの連関を目指す杉山さんは、コラボにより壁装材によるARTを生みだそうとしています。そのハイブリッドな取り組みも終盤に少し紹介していただきました。

お酒を嗜みながらの和やかな会となりましたが、この様な会を通じてaacaの活動を理解頂き、会員同士の交流の輪が広がることを期待しています。

(鹿島建設 篠田秀樹)

開催日:2024年1月19日

話し手:日本画家 大沢拓也さん

フッコー 代表取締役 杉山成明さん

モデレーター:鹿島建設 篠田秀樹

会場:aaca事務局(東京・三田)



作品を見せる大沢さん



《flux》大沢拓也



壁装ARTのモチーフ
《cerasus》



サンプルや左官道具を用いて説明する杉山さん
(左から2番目)